



絹に似

羅紗

毛織の精品

金巾

西洋の本

綾子

紗綾に似て厚く地文

指妻

緞子

地厚く滑らかに艶美なり

縐子

地厚く滑らかに艶美なり

縐珍

縐子に似て縐の粘り少く織文の純なるを

錦

五色の絲を以て文章を織

我邦の錦ハ世尊第一等と云

金襴

地ハ錦に似て其間金文を織

紗綾

綾に似て文ハ指妻又菱垣なり

紬

太絲の織なり古代を以て縐と云

麻

苧麻を以て織るもの

上布

布の上品を云薩州

羽二重

の縐

最上なる地合脆滑なり堅緻織目

唐棧

品

毛氈

毛織の厚物なり其類ハ多し

縮

凡そ布疋を績累りに緯を紡ぎ織るに緯

晒布

織布を煮春晒

雪の如く潔白

繭紬

絹紬とも云唐山

飲食

飲ハ飲料なり食ハたべものなり燧人氏始鑽燧教人火食

飯

諸穀を炊く皆飯なり

酒

酒ハ水穀の液を醸成し飲べバ和血

餅

炊き

搗て餅とす餅

酢

白米を飯小蒸しあきに米麹を

鹽

天造凝結

と人造物

砂糖

甘蔗の莖を搾り汁を

醬油

能く食物の毒を制

其製大豆麦と麴と塩水小和す

味噌

味噌一小未醬作

大和全書云國俗膳食
兼用松魚と油也
不食也聖人不得其
美也蓋亦欲其根
食之毒也

物

絹に似 **羅紗** 毛織の精品 **金巾** 西洋の本 **綾子** 紗綾に似て厚く地文

指妻 **緞子** 地厚く滑らかに艶美なり **縹子** 縹子に似て縹の粘り少く織文の純なるを

縹珍 縹子に似て縹の粘り少く織文の純なるを **錦** 五色の縹を以て文章を織

我邦の錦ハ世尊第一等と云 **金襴** 地ハ錦にして其間金文を織

紗綾 綾に似て文ハ縹 **紬** 太糸の縹を以て古代を以て縹と云 **羽二重** 縹

麻 苧麻を以て織る **上布** 布の上品を以て薩州 **唐棧** 品 舶来 **毛氈**

最上なる地合脆厚なり堅緻織目 **唐棧** 品 舶来 **毛氈**

毛織の厚物なり **縮** 凡そ布疋を績累りに緯 **晒布** 織布を煮春晒

其類ハ多し **繭紬** 絹紬とも云ふ **唐山**

飲食 飲ハ飲料なり **飯** 諸穀を炊く **酒** 酒ハ水穀の液を以て飲む **餅** 炊き

搗て餅と云ふ **酢** 白米を飯小蒸しあまに米麴と **鹽** 天造凝結

と云ふ **沙糖** 甘蔗の莖を搾り汁を **醬油** 能く食物 **味噌** 味噌一小未醬作

其製大豆麦と麴と塩水小和 **味噌** 味噌一小未醬作

夏ハ七十五日冬ハ百日と云 **味噌** 味噌一小未醬作

大和草五國俗語
豆油酒醋鹽也
兼用松魚油也
食米肉全所宜
之物也聖人不得其
不食也亦其機
食之毒也

糖味嗜り人家一日も欠
づくとば体調和物なる

粥

米と煮て糜爛せしむ也
其厚と饅とを配する

汁

水又

酒漿馨好づき
ハ酒漿馨好づき
物の沢粉なり

湯

水と煮て
熱きと云

油

草木の實を搾りて油とす
種ハ燈に用ひ在ハ傘挑燈雨衣
種米を飯とす
三七日おろし糟を去り用ふ

胡マの子ハ食料に用ふ

味淋

麹米を飯とす
麹焼酒と和

焼

酎

火酒又ハ阿刺吉酒と云濃酒を糟み和せ
醸ふも蒸して葉とす其滴をとり

團子

米を屑
みして

水少く漉
蒸し食ふ

麩包

小麦を粉みして水少く漉膏油を以
て煎て西諸國の常食なり

麩

精米
と水

飯粒を分離せしめて蒸して乾て後こきと篩ひ
地を塞ぎ時間と養やを故小呼て貧乏草とす

烟草

こきを喫て一菊の
糧ともす

天正年間初冬に南蛮より載來る今殆茶酒
對抗

饅頭

今の造
了法醴

酒をもつて麩と漉を煮て焙毫に煮り
燻透り肥脹物を待てふてび蒸し成す

羊羹

赤豆を煮て皮
を去り水伐

絞り粉と麩粉を和せ砂糖の煎汁少く漉乾して
蒸と蒸羊羹とす

穀菜
穀ハたろもの訓也五穀の外其類夥し
菜ハ乃ち蒸菁の葉を標す蓋菜ハ蔬の通稱

諸菜小冠なる也

粳

粳糯通しと稱し粘り粘り
又美淋酒とも醸まづ

糯

粳小似て圓く
肥え色白

性粘り。養糕飯ふつて
又美淋酒とも醸まづ

粟

穗大小毛長く粗粒を粟とす
毛短く細粒を粟とす今ハ汎稱

とろ栗

黍

稷の粘りものを赤黍黒黍の二種あり赤黍ハ穗
熟して色赤く皮も赤く黒黍ハ一稔小二米あり

大和本草云柚百穀
之長而人之生命所係
也性平氣香能補益
乃中和氣味
テ性味不偏故無病有
病常食之無害
一日不可闕注類曰天生
五穀所以養人得之
則生不得則死惟此
穀得天地中和之氣同
物化生有之功故非他
物可比○日本紀神代
卷稻來大豆粟稗記
云是上古ヨリ我邦
也飲明天皇十二年以
種一十斛賜百濟河
自上古有此種也

單語國字解

房大や
て子多

蜀黍

莖の高丈餘。杖蓋状。小似て肉実。穂ハ帚の如く。粒の細く、紅黒色。濟荒粮。蓄に利あり。玉蜀黍。

悉南洋諸國
小夥産

蠶豆

葉ハ匙頭の如く。木圓く末尖り。一枝三葉。花ハ蛾の形。似て紫白色。莢と垂る。頗る老蠶。小夥産。

绿豆

葉ハ小。水線。毛。秋時小花。并々。莢ハ赤豆の如く。粒粗。色鮮。小。色深。

野粟

葉白。莖の細。夏月莖と抽て青苞。結ぶ。花并々。苞脱。花謝。莖の頭。白。極細。

大角豆

蔓の長。短。葉ハ本大小。尖。花紅白。莢と數色。其結ぶ。必兩々並掛。

菘

ハ徑尺小。近。莖粗。葉大。厚。或云此蔬。六益。具。

芥

根白色。其葉節小。對。生。其莖節。捷。中。

氣芳。美。食。水芥。波。沢。の涯。生。早芥。平地。生。

牛蒡

暮春。苗。生。莖。肥。壤。小。栽。其。根。臂。の。長。尺。餘。掌。の。色。淡。紫。滑。長。展。開。鳳。尾。の。如。く。繩。と。數。年。雨。水。に。中。流。も。朽。存。少。故。小。竹。と。如。母。草。も。冬。月。土。より。出。掘。取。の。冬。筍。似。款。冬。葉。ハ。草。薺。小。似。て。又。尖。大。

葉の如く。長。淡紫の花。并。実と結ぶ。肥壤。小栽。其根臂の。長尺餘。掌の。色淡紫。滑。長。展開。鳳尾の。如く。繩と。數年。雨水。に。中流。も。朽。存。少。故。小。竹。と。如。母。草。も。冬。月。土。より。出。掘。取。の。冬。筍。似。款。冬。葉。ハ。草。薺。小。似。て。又。尖。大。

蕨

三四月。芽。生。拳。曲。小。児。の。筍。生。旬。有。六。日。母。と。長。

青。莖。濕。地。生。三。四。月。苗。生。五。六。月。繁。茂。秋。小。葉。細。花。紅。白。并。々。并。く。九。七。七。種。形。狀。稍。同。如。蓮。根。白。色。孔。あり。線。り。白。莖。の。藕。ハ。大。小。孔。扁。生。少。食。紅。花。及。び。野。藕。ハ。生。食。味。淡。蒸。咬。く。

青莖。濕地。生。三。四。月。苗。生。五。六。月。繁。茂。秋。小。葉。細。花。紅。白。并。々。并。く。九。七。七。種。形。狀。稍。同。如。蓮。根。白。色。孔。あり。線。り。白。莖。の。藕。ハ。大。小。孔。扁。生。少。食。紅。花。及。び。野。藕。ハ。生。食。味。淡。蒸。咬。く。

蓮根

白。色。孔。あり。線。り。白。莖。の。藕。ハ。大。小。孔。扁。生。少。食。紅。花。及。び。野。藕。ハ。生。食。味。淡。蒸。咬。く。

款冬

葉ハ。草。薺。小。似。て。又。尖。大。

昔一冬春
之と堀好

紫蘇

天南星の苗と同し但莖に斑点多し。其のれ
紫色宿根亦いづる苗を生じ一週年に

て根の大好る碗。或ハ芋魁のてり。
外理白。秋後根を采て餅を作。

紫蘇

莖ハ方葉ハ團やして
尖り四圍鋸齒やう肥

地ハ面背俱ハ紫に瘠
土ハ面青背紫の別有

黄瓜

蔓生葉ハ冬瓜のてり。瓜ハ團二三
寸。長さものハ尺にりて青色の

上小癩癩やう老て
ハ黄赤色し形好

白瓜

其葉加茂葵小似て其根形
味生姜に似たり故ハ山葵

青葉黄葉。夏秋の間瓜と
いふ。青白の二色あり

山葵

其葉加茂葵小似て其根形
味生姜に似たり故ハ山葵

姜の名

海苔

苔ハ水衣やう。水土同
氣より生るる。紫苔ハ

慮數十種。河海の両品あり。氣
味亦淡鹹迥らに異なる

昆布

北海道及び奥の諸州の海
底に生じ大やうハ一株能

林やう。葉長二三文中四五寸。海人
鐵もてらるるを取。東海無比の佳品なり

菌

蕈の惣称にりて松
陰小生じやうと松蕈と

石茸等數十種あり。陳仁玉の菌譜ハ其説甚詳なり

果類

果葉同ト木の上やうと果と云。地の上やう
と云。又云植生と曰葉蔓生と曰藤

梅

梅ハ杏の類。其樹葉畧杏に似て葉小長尖り。衆木ハ先だも
品類甚に多く栽種小易し。且ツ早く実を結ぶ。早く実の

桃

桃ハ杏の類。其樹葉畧杏に似て葉小長尖り。衆木ハ先だも
品類甚に多く栽種小易し。且ツ早く実を結ぶ。早く実の

四月花開す。六月実成り。上野やう。花ハ卵
のてり。小やうハ弾のてり。その形色数種やう

杏

杏ハ花因
小して尖り

三月紅茶と發く。亦千葉にりて実を結ぶやうあり。其
其實甘くして沙やう。沙香と云。其他梅杏。奈杏。金杏有

梨

人煙
近き

三月白花と開く山中はつるど棠梨と云

栗 五月実をすく青黄
色長條小しと胡桃

花小似たる。其實ハ苞生刺多し。霜降の時熟し。罅折て子出

柿 柿ハ高樹大葉圓小し。光沢あり。五月黄白の花と

ひく。実ハ秋晩に熟し。世ハ柿ハ七絶の徳也

柚子 樹葉皆橙小似たり。実大なる。瓜のごとく。色黄形圓。其

馨。蜜柑 即ち橘より高丈餘。枝小多く刺を生じ。其葉

兩頭尖く。綠色。実ハ冬に熟し。黄熟し。種類

數多 枇杷 肥枝長葉背小黃毛あり。四時凋落。冬月葉折

り。五月実熟し。大なり。熟子のごとく。小なりハ竜眼

の如 銀杏 葉扇形。縦理あり。鴨掌のごとく。四月に熟

し。實ハ長く尖り。筆頭小似。葉の縁は褐色。色は白。兩片と

禽 樹奈に似て。三月小粉紅花をすく。子も亦奈に似て差圓し。七八月小熟

東 五月小葉を生じ。葉の縁は褐色。色は白。兩片と

六月白色の小花をすく。其實 生ハ青く。熟しハ赤く

椎子 推の實長く尖り。筆頭小似。葉の縁は褐色。色は白。兩片と

櫻桃 大和本草云。中夏に橘ノコヲ煮テ爲紙時珍モ稻稈者治テ爲紙トイフ。其樹不世高。大木ニアラス。ユスラモ枝少キ。三月頂小白花。葉如櫻。四月頂其實熟シ。紅ク。食之。甘ク。凡諸果中最早ク熟シ。肥ニ先ク。春有節枝ヲサセ。又實之ヲハキテ。橘ノ如クニ煮テ紙ヲス。

穂多し。黄白色。実ハ紫白の二種あり。西洋産ハ小異なり

葡萄 實ハ兩々相對し。四月実をひく。其実の皮中蜂窠のごとく。黄膜あり。隔つ実ハ人の齒

のごとく。淡紅色。霜後自然と拆裂す

石榴 葉ハ兩々相對し。四月実をひく。其実の皮中蜂窠のごとく。黄膜あり。隔つ実ハ人の齒

霜後自然と拆裂す

胡桃 葉ハ兩々相對し。四月実をひく。其実の皮中蜂窠のごとく。黄膜あり。隔つ実ハ人の齒

青桃 葉ハ兩々相對し。四月実をひく。其実の皮中蜂窠のごとく。黄膜あり。隔つ実ハ人の齒

草木

三月白花と開く。其葉夫り先賦細齒なり。

栗 五月実を結ぶ。葉は青黄。色長條小く。胡桃。

花小似る。其實ハ苞生刺多し。霜降の時熟し。罅折て子出。

柿 樹葉皆橙小似たり。実大なる。色の瓜のごとく。色黄形圓。其

ひく。実ハ秋晩に熟し。世ハ

柚子 樹葉皆橙小似たり。実大なる。色の瓜のごとく。色黄形圓。其

蜜柑 即ち橘より高丈餘。枝小多く刺を生じ。其葉

兩頭尖く。綠色。実ハ冬に熟し。黄熟し。種數

枇杷 肥枝長葉背小黃毛あり。四時凋。冬月葉折

五月実熟し。大なり。熟子のごとく。小なりハ竜眼

銀杏 葉扇形。縦理あり。鴨掌の如し。四月に花

と散り。枝と連ねる百千状。挿子の如し。

樹奈に似て。三月小粉紅を結ぶ。子も亦奈に似て差圓し。七八月小熟し。

東 五月小葉を生じ。

六月白色の小葉を散る。其實 生ハ青く。熟しハ赤く。

椎子 推の実長く尖り。筆頭小似。葉褐色。色白色。列ハ兩片と

山椒 四月嫩芽を生じ。五月細花を結ぶ。六月実を結ぶ。味

香あり。五月細花を結ぶ。六月実を結ぶ。味佳。

其樹不甚高大。木ニアラス。モロモロ枝少。葉ハ高教。三月頂小

葡萄 實を蔓を延て。數十丈を引く。初夏小葉を結ぶ。其

穂多し。黄白色。實ハ紫白の二種あり。西洋産ハ小異なり。

石榴 其實の皮中蜂窠のごとく。黄膜あり。隔つ實ハ人の齒

のごとく。淡紅色。霜後自然と拆裂け

胡桃 葉ハ兩々相對し。四月実を結ぶ。穂蒼黃色。実を結

ふや青桃 又朝鮮ヨリ来レテ。散葉シテ。長為佳品。玉露ロー。食之令人能食。通河血。解骨。肉。細。解。毒。一。良。藥。也。其。功。多。シ。

草木

菊

宿根自ら生ず。千葉單葉あり。正色間色あり。其莖株蔓くもにり。其葉厚薄光禿の異あり。四時花絶え。近來數多の珍

花を玉に。嫩葉黄花ハ。燥ぐ食ふに堪たり。

桐

桐は朝陽の地小生ず。葉圓大にして尖き。春葉を并く。牽牛花の如く。白色実を

結ぶ。大きき巨束に似たり。琴瑟器物小作材良材なり。

櫻

西洋の櫻花ハ。色白く。花形小。日本種の妖艶なるに似たり。實ハ

大粒ふりて。甘美なり。

松

樹礫。修篲節多し。其節粗厚。やう鱗形。雌松ハ。木其太わじ。皮に鱗やう赤色を帯ふ。

松茸ハ。雌松の下に生ず。松脂松節ハ。雄松を用ふ。支那朝鮮小産。海松子と名く。霜後葉脱るもの

落葉松

杉

松小類。徑直。葉枝小附て生ず。其葉硬く微扁。針の如く。人家植るもの。唐杉。江戸杉也。

此樹挿條生ず。縦横倒順を嫌はる。皆よく生じ。長し。易。春初。柔黄を生ず。春晩小葉成長。狭長青緑。枝條長軟なり。

桑

白桑ハ。其葉人の掌の如く大なり。鶏桑ハ。葉を附け落し。子桑ハ。椹を

楮

雄ハ皮斑やう。葉葡萄の如く。極やう。四月不花を并に実を結ぶ。雌ハ皮白く。葉小極やう。亦碎花をのり。実楊梅の

如く。其皮を剥き。擣煮て紙小造る。

竹

竹ハ草の如く。木小。節あり。節小。葉あり。葉節あり。枝小。節あり。節小。葉あり。葉

ハ必三ツ。枝必三ツ。根下に枝。雄と。ニツ。雌と。其層六十一種。淡竹。苦竹。最も世用なり。

漆

葉楠木小似。秋細実を

其汁器物を髹す。身ハ柿の如く。葉を椿の如く。皮白く。葉槐小似。子ハ牛蒡子小似。

茶

早摘を茶と。晩茶を茗と。

服まぶ。小便を利し。痰熱を。暑や久睡を。除く。

牡丹

四月を并に。六月子を結ぶ。世小牡丹を花王と。芍薬を

花相と。花品中。のむ物なり。

芍薬

花容焯然。故小名づく。報俗。芍薬を真好。牡丹小似。秋中夏を折く。五葉牡丹小似。

狭長なり。花ハ人家の栽種と賞也。葉其山中の産佳也。

海棠

其木堅く節多し。枝柔密なり。杜ノ類也。

花五出少て初ハ臘脂のしく弄くに際ひ漸く

檜

曲枝なり。葉ハ肥

厚繩文なり其樹相摩ハ火

栢

其木皆陽に向ふ。栢ハひらう陰木也

雪を畏む。葉上ハ微赤毛あり。其樹聳直其皮厚

藤

其花紫白の二種

り。乃二三尺樹ハ纏い架ハ垂なり

藤

蔓生なり。地ハ被り。枝葉を

多し。咬啮也。暹羅の地方に産す

葛

其蔓延長二三丈青黑色也

たり。桐ノ外紫内白く長きもの七八尺搗爛

菅蒲

池沼に生す

ハ根大なり。肥節疎。溪澗に生ず。根瘦く赤く節密なり。

花葉俱小。燕子小似なり。石菅菅蒲ハ葉小。劍脊ありて。香臭素を

薄

叢生し。葉ハ芽の

亦なり。又一種花菅蒲なるもの。紫を弄く

萩

六月より開て八月小延ぶ。花頭細小。其

了。白花を弄く穂を弄く

黄楊

其木堅膩なり。梳小

粒の大なり。春て米とやを飯に敷

南天

至て長し。難き木なり。三十

初生の槐の芽小似て青厚花

朝顔

三月子を種

宛も竹小似たり。梅雨候ハ白花を着け。実ハ

葶

其扶竹小似て葉

之種曰蘭。其花白。其葉如蘭。其根亦竹根の如く。節疎なり。流
球國小大葦なり。風西尺許。その種々の器具を製す。

水仙

葉根蒜薤に似て長く冬月葉を生ず。春初葉を弄く。白色五尖。黄心
を弄く宛然蓋の様なり。其茎瑩韻。其香清幽。南面北塞の地。小茂

百合 高二三尺。幹粗く。葉の如く。葉ハ竹葉に似たり。紅白
を弄く。手は根ハ葫蒜の如く。重疊二三十瓣を生ず。根ハ

調菜必用
の物なり。
躑躅 高きもの四五尺。春苗を生ず。葉ハ浅緑色。枝
少く。花繁く。一枝數萼。五月初て花

色ハ青
ひく。五
木賊 叢生直長。中空。小して寸。節あり。色青。冬
を弄く。洞す。毎根一幹。枝花なり。物を磋け

光淨
を弄く。
棕櫚 其葉扇の如く。車輪に似たり。幹正直。少して
枝多し。葉小近き。皮ハ少く。其皮ハ緑

毛ハ
魚腹の子の如く。これを標魚と云。
蒟 田圃小種時。冬抄。苗を生
蔓延數尺。方莖中空。

筋あり。外ハ細刺あり。秋時葉を弄く。葉を
むき。其根紫赤もつ。縛を造む。
椿 山茶花の類。樹葉葉実
山茶葉小似たり。其

実無花果
に似たり。
萍 池沢水中に甚多く。季春初て生ず。一葉宿を纏む。
もろもろ數葉を生ず。葉下に微影あり。其根あり

桔梗 春苗莖を生ず。高さ尺餘。葉ハ杏葉に似。夏小花を弄く。
紫碧色。頗る牽牛葉小似。秋後子と結ぶ。其根指大の

白色
山吹 其葉桃に似て。長尖り。春晚
葉を開く。千瓣。深黄金の如し。
芭蕉 大形

の一團莖の長丈許。其莖虚軟。芋の如く。根ハ芋魁の如く。青色。三
年を過ぎるなり。形色全く蓮花の如く。其子熟き。甘脆。葡

萄の如く。南洋の諸島
實を採りて。糧に備ふ。
瞿麥 瞿麥石竹。即ち兩名一種。昔ハ葩
の周圍刻齒あり。切又あり。瞿

麥の如く。切又あり。
を石竹と云ふ。
蕃椒 三月種。下葉ハ柀の如く。六月
小白莖。子と結ぶ。葉ハ桃

推子標捕等の

鳥

其藤柔ふしく稜あり。一技一槎九五葉
葉長ふしく先り疎齒あり。冬を再々実を

ふむ **枝**

木の旁より出るもの
さつ小枝を條と云

葉

草本の莖葉
を葉と云

苔

苔心

ふむ **花**

花はまをくむもの畧言なり。まは実よりさざらて
ちやく折くゆえなり。一説花はさけりの意

莖

花の外を莖と云
うらと莖と云

幹

木の旁に生るものを
心と云るものを幹と云

鳥獸

凡そニ足ふし。羽
し。毛は体もの。惣名と獸と云ひ。養養

ものを畜
と云

鶴

全形鶴より大なり。長三尺高三尺餘。頰あり。脚あり。頸
ひやく。羽白く。翼をうら。雄は上尻小鳴き。雌は下尻小鳴き。

声を交て孕む。惣して丹頂
真鶴。巢雀。白雀の四種あり

鷗

首尾餘翅体純白。く雪の
る尺餘。翅短く。尾ハ短く。喙脚も

に長うしく色ハ青。頂ハ長毛あり。群飛序を亂た。啼声人の喚ぶに
似たり。大なり。白鶴子と云。其形大。鷗小類也。但爪細毛あり。其外蒼

鷗

鴉

羽毛純黒。腹下白く。背大。くむさるを好む鳥ハ
背あり。鴉も小。生きて母鳥哺養せしむ。六十

日。巢なり。後。子鳥必らば。然を糞して。二十日。色を
鳥の互哺の孝あり。その他。燕鳥。は。山鳥。は。葉

鷹ハ物名。子。種。品。四。十八。あり。鳥。中。の。虎。と。称。せ。す。
鷹ハ似て赤黄色。羽毛。婆。波。と。云。て。尾。ハ。扇。を。披。たる。如。く。脚。灰。青。

鷹ハ物名。子。種。品。四。十八。あり。鳥。中。の。虎。と。称。せ。す。
鷹ハ似て赤黄色。羽毛。婆。波。と。云。て。尾。ハ。扇。を。披。たる。如。く。脚。灰。青。

類多し。偏。鳩。と。云。は。俗。子。野。謂。志。の。ま。わ。り。又。八。播。鳩。の。頭。の
まり。黒。珠。數。を。掛。なる。と。云。羽。毛。灰。白。や。て。文。也。青。鳩。鳩。鳩。鳩。鳩。鳩。鳩。

鳥獸類考

一

鳩

鳥類考
凡そ鳥類は四十八種あり。此は鳥類考の序言なり。凡そ鳥類は四十八種あり。此は鳥類考の序言なり。凡そ鳥類は四十八種あり。此は鳥類考の序言なり。

つばきも羽毛麗。別て孔雀鳩ハ龍飼少て愛せ也。

雁

大ヤウと鳴く。脊頭も灰色。深黒くして其尾本は白く末黒く。腹

白く脚黄紫黒。鼻の辺りに黄條あり。小ぢらハ蒼黒ありて胸腹ハ白黒の斑あり。其嘴ハ赤く脚黄あり。種類數品あり。

鳧

杖ら驚に似て小き。雜青白色脊上ハ文あり。短喙長尾。脚紅掌緑。尾尖るもの多し。種類數品あり。

燕

身長く玄衣白頸赤黄色の額あり。春来て屋宇の下に巢つ。秋小ぢらて歸る。平ハ鳧と表裏をなすものあり。

鷄

時と昔ふ大ぢらハ蜀とひ小ぢらと矮鷄と云ふ。其雛を鷄と云ふ。羽五采あり。齊くわらば。又云鷄ハ五徳を具ふ。其冠を戴く。文あり。豆小

距を搏ハ武あり。敵を覩て敢て闘ふ。勇あり。食ふはて伴を呼ハ仁あり。夜を穿りて時を失はばハ信なき。

雉

雄ハ毛羽文采ありて尾長く鳩ハ茶色小ぢら尾短。其交再せん卵ハ褐色也。

蝙蝠

山谷或ハ人家の簷間ハ生ず。

全作氣のくくは。肉の翅あり。昼ハ伏し夜飛て蚊蚋を食ふ。

鶻

鶻ハ雀の屬狀。燕小類也。全色青灰頸下眼後ハ黒

條あり。尾ハ長く嘴尖ま。腹ハ白く。むねハ黒文あり。

鷓鴣

鴉小似て喙微曲まり善く水不没て魚を捕好。昼ハ洲渚ハ集り。夜ハ

林木小宿。漢父飼て莫とせり。濃刈長柄川のもの手練至巧形。小ぢらと鷓鴣と云ふ。全形灰白

鷓

雄ハ足高く。雌ハ足卑。其性寒を畏る。仲春始て声を

を發。芒種の節ふり止む。七月又更ハ鳴。中秋ハ声を収む。

梟

貌頭鷹と云。形體大。小ハ兎小似て毛角あり。物身褐彫。或

ハ白彫。やうり登ハ伏し夜翔く。小鳥或ハ兎を取ら喰ふ。九田場穀倉少。此鳥を云ふ。氣を捕へむ。極て怪捷なり。

兔

兎

わら鼻に似て小き。遍身褐黒色に白き彫あり。頭目猫の眼辺白圈を有せり。毛角兩耳啼声老人の呼ぶごとく。

笑ふ。如。鴛鴦。其毛羽五采。其背以小羽を負ふ。形指扇の半辺に似たり。こまを細

羽と稱す。秋多群至。漢川小多く棲止。鸚鵡。其性寒を畏る。故春暖熱國を以て

稱す。小鳥を音呼と稱す。丹味。鈎吻。長尾。赤足。金睛。深目。就鳥。羽毛青白く又ハ五色あり。支那の南土及印度地方小多く産す。

鵬。鷹に似て大ヤ。尾ハ七八尺小及ぶ。背鈎。全身土黄色。腹毛黒く。其羽も似て。鷲。悍多力。虚空を盤旋し。よく鳥獸或ハ小兒を攫食

ふ。其翻もつて。鷓鴣。遍身灰白。腹ハ真白。項短く脚長。うら。江。河。小。鳥。人家小養ふて。蓄想。雄ハ緑。雌ハ黄斑あり。又純白。純黒。或ハ白くして鳥も

骨のものあり。其行也舒緩。高飛。能。卵を産て育まふを母鶏。情を奉む。鴟。形目白鳥に似て。肥え。黒

うら。立春の候。其聲。清亮。圓滑。時鳥。状雀。鶏。小類。色灰黒。腹白。鷹。虎。羽。亦。白。斑。口の内赤く。羽小。冠毛を眩ふ。其啼。や。初。夏。より。仲。秋。の。初。月。ハ。深山。ハ。蟄。せり。其。霜。能。痘。疹。の。熱。毒。を。治。す。

雀。雀ハ小鳥なり。羽毛斑。水鶏。水禽。告。大。鳩。撃。楸。小。短。尾。二。寸。許。常。小。簷。瓦。の間。栖。宿。階。除。の際。小。馴。近。の。頭。脊。翅。皆。蒼。黒。斑。有。嘴。長。色。蒼。尾。短。脚。長。夜。鳴。旦。に。達。る。

雲雀。鶉。似。小。色。叢。草。中。に。棲。宿。天。日。晴。霽。小。遇。且。飛。且。鳴。直。ち。小。雲。端。小。上。依。其。声。連。綿。や。や。羽。羽。同。大。鳥。を。翼。下。の。弱。羽。を。季。

翼。翅。同。大。鳥。を。翼。下。の。弱。羽。を。季。尾。ハ。鳥。獸。の。尻。の。長。毛。

尾。尾ハ鳥獸の尻の長毛。

羽。羽。同。大。鳥。を。翼。下。の。弱。羽。を。季。

羽。羽。同。大。鳥。を。翼。下。の。弱。羽。を。季。

羽。羽。同。大。鳥。を。翼。下。の。弱。羽。を。季。

羽。羽。同。大。鳥。を。翼。下。の。弱。羽。を。季。

の物名なり。鳥の尾を翹
くもる大抵十二枚なり

此

鳥の喙なり。喙は鳥獸の口と通じ
て稱せまはれり。吻も亦ちクワキヤリ

馬

馬は十二月にして生ゆ。齒を視て其年の老壯を別つ。弱き馬を駑と
いひ。癖馬を駟といひ。物を負ふ馬を駈といふ。又八尺以上を竜と稱す。

七尺以上の駿。六尺以上を馬。五尺以上を駒と
稱す。天下の馬亞喇伯をもつて最良と
稱す。肉ハ益ニ益ニ脾胃を養ひ。腰脚を補ひ。乳ハ餌養の身

牛

重きを運び田畠を耕す。牛ハ人間
の勞を助く

功用の善獸畜
中其右め出する

熊

熊ハ深山に生ず。大なる豕の形あり。黒白棕の
三色あり。豎目。人馬全體純色。性輕捷ありて

好んで高木に登ゆ。冬ハ穴を鑿して不食。春夏出て搗糞行し。石
嵩枯木に踞伏す。冬ハ穴を鑿して不食。春夏出て搗糞行し。

鹿

鹿ハ深山に生ず。大なる豕の形あり。黒白棕の
三色あり。豎目。人馬全體純色。性輕捷ありて

小馬の如く角あり。短く尾高き脚行くと速く。牝ハ角無く斑毛なし
秋夜凄凉の声を發す。性人を怖む。嚙み舐む。鹿と鹿を鹿鹿と云

猪

猪ハ深山に生ず。大なる豕の形あり。黒白棕の
三色あり。豎目。人馬全體純色。性輕捷ありて

犬

洋諸國は養飼す。其主の令を奉じ。殆ど僮僕のご
とす。性寒を怖む。暑を怖む。能く思ふ。知り。九月
十月に

猫

狸の身虎の面柔毛あり。利齒あり。性寒を畏む。暑を甚ふ。犬の
性相反なり。其利齒あり。利齒あり。性寒を畏む。暑を甚ふ。犬の
性相反なり。其利齒あり。利齒あり。性寒を畏む。暑を甚ふ。犬の

鼠

其類頗る繁。形兎やく小。遍身青黒色。長髪凸
眼。尾長し。身一色。孕ると一月にして生る。

杖人のく。頰陥して食を藏む。処り。此を嚙む。一版中に母猴を畜す
ばよく馬病を避く術をもつて馴使ふ。性熱を愛す。故に赤道附近
に産ゆ。猫の如くは。圓き。尾太し。尾を猫狸といふ。斑毛ありて

狸

狸ハ深山に生ず。大なる豕の形あり。黒白棕の
三色あり。豎目。人馬全體純色。性輕捷ありて

狐

夜ハ出て竊る。食ふ。聲嬰兒の如。蓋殊獸也

兎

晉書。帝嘗夢見黃耳。遂使人求之。得之。遂以爲名。其犬也。善解人意。嘗臥帝側。帝欲食。犬必先搖尾。帝遂進食。其犬亦食。其犬死。帝甚哀之。遂葬之。其犬名曰黃耳也。

昔武州金澤。父澤也。嘗有犬名曰黃耳。其犬也。善解人意。嘗臥澤側。澤欲食。犬必先搖尾。澤遂進食。其犬亦食。其犬死。澤甚哀之。遂葬之。其犬名曰黃耳也。

單語國字解林編卷下

大さ狸のしくく。形ハ鼠小似。得色尾短く。耳大。鋭上唇缺前足。...

猪 深山小居。形猪のご。腹小。脚も。

毛色褐或ハ黄牙口外。小狐中。青黒の毛色。尾長。四足。...

獺 江湖多。棲む状。小狐中。青黒の毛色。尾長。四足。...

高下齋。水居。能く水信を知り。穴を作る。故ハ羊に。

貉 貉ハ山野小生。状狸のご。...

狼 狼の属。穴居。...

羊 羊属。...

虎 全体猫のご。...

象 地方及び亜非利加。...

鼠 鼠小似。身長。尾大。黄色赤。...

栗 強。常小地中を穿ちて。...

骨と 骨と。角と。...

蹄ハ 蹄ハ。...

角 角。...

了當了 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

魚名目録 魚名目録 魚名目録 魚名目録

鰻

秋末稍長して江海の交わるところを棲居す。...

鰻

背青く腹微白く形鱗小似たり。...

鰻

全身扁たく頭小口尖り。...

鰻

北流の大川小生ず大や二三尺細鱗青質赤章肉赤く脂...

鰻

大口細鱗鱸魚小似り肉白く...

鰻

皮滑く鱗尾共に軟なり性...

鰻

秋好相名をトシス。...

鰻

形色大々鱸魚小類。...

鰻

夏月全く無し。...

鰻

小や体ハ新條真に同く。...

鰻

形圓径小さく。...

鰻

其骨黒色肉潔白味甘淡...

鰻

身蒼黒色肉光賦り其肉曝乾して...

鰻

五味の偏を調和して。...

鰻

大や体ハ背青白や。...

鰻

開闔食物を觸ゆも。...

鰻

食ふ。...

朝少く東小向ひ暮少く西に...

鰻

海國皆有り。...

鰻

秋小鱗小似り。...

鰻

江海の間に生ず。...

鰻

初生ハ。...

鰻

...

鰻

...

鰻

...

鰻

...

鰻

...

白魚

江海の交わ生ず。頭尾尖りて身扁く。鱗は皮骨に。水中に居るとは青色水を離すとて。潔晶銀の如く。春月

物とて市に上り。人々の好む貴に。

金魚

色朱を金魚と稱し。白を銀魚と稱す。将來は養玩物として。

近來はを飼ふ小益巧を。奇形異状さ多くあり。

烏賊

状革囊の如く。無鱗有鬚。黒皮白肉。口は腹下にあり。

八豆口の旁に聚る。背の上の骨状小舟の如く。

章魚

状烏賊に似て大に。八豆口。鬚々と連ね。頭圓く眼口頸と

足の間より。腹は腸頭中に満つ

海鼠

大抵五七寸。全体疣多く軟滑腹は白く。背圓く浅青色。

骨鱗尾鱗俱小。形絶た蠶小類を表裏俱小潔く。其性温補人參小飲也。故小海參と云ふ。東海の良産なり。

水

母

形圓より鱗骨頭目。惟口の如く。腹下にあり。又下

尺蠖

海中石上小附着。硬相連好房の如く。皮は肉一塊あり。大

鼈

甲蟲より水居陸生龜と類を同する。背脊脇小連り。四縁に肉裙あり。耳は目より聴く。齒も利く。

灰代ふ。乾燥物を推く。肉甲

榮螺

螺の属。外面灰皂色。裏面赤褐色なり。

其肉一端は黒く。一端は黄くして中白

鱗

魚の甲を鱗と云ふ。古人云。鱗ハ割り。魚ハ水小産する。故鱗類に似たり。鳥ハ林小産す。

好ゆ多羽葉小似たり。獸ハ山小産す。毛草に似たり。

鱒

魚の脊の上

山蜂ハ黒色より牛虫に似たり。俱小蜜を釀し。房壺とも葉割る。

蜻蛉

六足四翼大頭露目。短

の。蚊蛇を食ひ露水を飲む類。説云水蠶の化せる處と

蝶

大を蝶と云ふ。其種繁し。四翅好

廣島等皆作食。春又卵生。只蝶。化生。凡蝶。右。竹。生。二。化。生。二。子。動。又。故。此。竹。道。故。竹。道。

鳥言國字解本新巻下

花の香を鼻に吸ふ。花の香を鼻に吸ふ。花の香を鼻に吸ふ。

蜘蛛

二手六脚。尻圓大。蜘蛛を設けて飛む。蜘蛛を設けて飛む。蜘蛛を設けて飛む。

蛭

水中に居る。水蛭と名け。草土に居る。水蛭と名け。草土に居る。水蛭と名け。草土に居る。

蟻

大小黒白黄赤の數種あり。穴居。蟻の數種あり。穴居。蟻の數種あり。穴居。

蠅

夏出。冬藏。暖を喜ぶ。蠅の數種あり。夏出。冬藏。暖を喜ぶ。蠅の數種あり。夏出。

蠅

始気化より生。後小印を遺。蠅の數種あり。始気化より生。後小印を遺。蠅の數種あり。

蠅

鎌の。半身以下翅あり。善く。蠅の數種あり。鎌の。半身以下翅あり。善く。

蠅

各色あり。燻を喜ぶ。蠅の數種あり。各色あり。燻を喜ぶ。蠅の數種あり。

蠅

蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。

蠅

方々首露目。口を嚙。蠅の數種あり。方々首露目。口を嚙。蠅の數種あり。

蠅

大小二。四角黒色。蠅の數種あり。大小二。四角黒色。蠅の數種あり。

蠅

熱を。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。

蠅

飛ぶ。其虫。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。

蠅

似て。其行。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。

蠅

の。差。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。

蠅

蛙。背青緑色。蛙の。蛙の。蛙の。蛙の。蛙の。蛙の。蛙の。

蠅

捷。飛。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。蠅の。

少して數種

蚯蚓

平沢地中に居住。雨降る先づ出て晴まば夜鳴く長吟其行く引くのちに申ふ

蝸

牛

形小螺に似たり。頭の形蝸の如く。背小殻を負ふ。頭小四の黒角

蛞蝓

灰黄色やうく白を交ふ。頭小肉角あり。背小細黒点あり。足やうくくを蝸行く。此物生きて擣て。蝸の傷たるに塗

もつバ立處小痛くを止む

單語國字解初篇卷下終

明治六年九月 官許
同 七年四月刻成

發兌

西京三條通堺町西

出雲寺文治郎

書肆

同柳馬場通御池南

北村四郎兵衛

